

現地の素材を生かした社会科の学習展開を探る

— 校外学習実施が困難な地域での紹介マップづくり —

前リヤド日本人学校 教諭

神奈川県川崎市立平小学校 教諭 福山 創

キーワード：小規模校，小学校，社会科，現地理解，紹介マップ

1. はじめに

サウジアラビア王国の首都リヤド市は、第2次世界大戦以後の石油開発収入によって急速に発展した近代都市である。市内には各中央省庁、有名ホテル、ショッピング街が点在し、それらを環状高速道路が整然と結んでおり、王国の首都にふさわしい威容と機能を備えている。現在も住宅や商店だけでなく巨大ショッピングモールが次々と建設の途上にある。また、世界最大級のキング・ハーリド国際空港に一歩足を踏み入れると、目をイメージした斬新なデザインと鮮やかな木々の緑、そして高々とあがる噴水に驚かされる。砂漠のオアシスを再現したこの豪華さは、サウジアラビア王国の繁栄への意志を象徴しているかのようである。

このように近代的な都市作りが進められている反面、アラビア半島の内陸部に位置することや宗教警察である勸善懲悪委員会（ムタワ）の日常的な取り締まりが強かったりすることから、街全体の雰囲気は開放的ではない。一日5回あるお祈りの時間には、すべての商店のシャッターが下り、非イスラム教徒はお祈りが終わるまで静かに待っていなければならないなど、日本とは、気候、地形、宗教、文化、社会システムなどが大きく異なるサウジアラビアにおいて、日本の教育課程に準じた社会科の教育活動を行うには大変な工夫が必要である。

また、1990年の湾岸戦争以降、サウジアラビアの国内情勢が緊迫し、校外学習をはじめとする学校行事が度々中止されただけでなく、学習指導計画の正常な実施を引き継いでいくのに困難な状況が続いたため、現地の気候風土を扱う学習に関するノウハウの多くが失われ継承されなくなっていた。

そこで、本稿においては、海外に在する子女教育施設でありかつ小規模校であるリヤド日本人学校（以後、本校と表記）の特性を生かした、社会科における授業展開や教材の研究を試みた実践をまとめたい。

資料①

平成20・21年度 小学3・4年社会科（複式）年間指導計画

平成20年度（時数）	月	平成21年度（時数）
○大講人（1）	4月	○大講人（1）
○わたしのまち みんなのまち ・学校のまわり（12） ・市のようす（13）	5月	○わたしのまち みんなのまち ・学校のまわり（8） ○住みよいくらしをささえる ・ごみのしまつと利用（13）
○ひとびとのくらしと わたしたちのくらし	6月	○くらしを守る ・火事がおきたら（7）
・スーパーマーケットで はたらく人（11） ・レポート発表会（1）	7月	・じけんやじこがおきたら（7） ・安心してくらせるまちに（2）
○夏の課題について（1）		○夏の課題について（1）
○夏休みの作品発表（1） ・工場のしごと（4）	9月	○夏休みの作品発表（1） ・水はどこから（9） ・きれいな水をつなげるために
○わたしたちの県 ・土地の様子（8）	10月	○きょうどにつたわるねがい （18） ・文化や開墾に尽くした先人 ・昔のくらし ・ふるさとれきしマップ
・産業（8）	11月	
・県の広がりとかくらし（7）	12月	
○わたしたちが住んでいる サウジアラビア（16）	1月	○わたしたちが住んでいる サウジアラビア（16）
・ひとびとのくらし ・サウジアラビアの産業	2月 3月	・サウジアラビアの歴史
計：83		計：83

2. 実践の内容について

(1) 小学3・4年生社会科「わたしのまち みんなのまち」を基に、リヤドの紹介マップを作成

平成18年度開始当初、本校の3年生在籍児童数は3名、4年生在籍児童は2名、合計5名であった。本校は小規模校であるが故、3・4年生の社会科は複式で授業を行う必要があった。2つの学年を複式で授業を行う場合、2年間をひとつのまとまりとして年間指導計画を作成する必要がある。またその際、サウジアラビアに在する学校として地域の特性を考慮する必要もある。そこで、学習指導要領に準じつつ本校の特性を生かした社会科の年間指導計画を作成した（資料①）。本校で使用している教科書は、3・4

年生を対象として内容が上下巻の2つに分けられているが、前年度までの既習事項などを考慮して、今回のような計画となった。年度当初に学校の在するリヤド市について知る活動があり、年度終盤でサウジアラビアの文化や地理、歴史についてまとめる活動が計画されている点が、この年間指導計画の特色である。

平成18年度、19年度は、小学3・4年生社会科「わたしのまち みんなのまち」を基に、リヤドの紹介マップ作成する活動を実践することができた。(資料②)

20年度は、1学期と3学期に主な活動を行った。1学期は、前年度作成したリヤドの紹介マップへの追加記事を作成した。3学期は、当初の予定では食文化を中心に資料的価値のあるwebページを作成するはずであった。しかし、児童の興味関心が予想以上に多岐にわたった為、それらを尊重して課題を設定するようにした。全て「サウジアラビアの～」が冠につくような、自然・地理、風習、食物、衣生活を扱う物である。具体的なテーマとしては、以下のものがあつた。



リヤドの紹介マップをつくる

- ①サウジアラビアの砂漠
- ②サウジアラビアのラクダ
- ③サウジアラビアのショッピング
- ④サウジアラビアの砂漠の生き物
- ⑤サウジアラビアの男性の服装
- ⑥サウジアラビアの女性の服装
- ⑦サウジアラビアの伝統的なおかし

なお、指導に際しては小学3・4年生社会科「わたしのまちみんなのまち」の指導計画を使用した。

資料② 「リヤドの紹介マップ」作りの学習指導案

- 1 単元名 「わたしのまち みんなのまち」
- 2 目標 ○サウジアラビア王国リヤド市の事物・事象や特徴ある場所の様子に関心をもち、諸感覚を働かせて意欲的に調べ、場所による様子の違いや特色を理解する。
- 3 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自分が住んでいる地区・地域に関心をもち、諸感覚を働かせて意欲的に調べたり伝え合おうとする。	自分が住んでいる地区・地域の場所による違いや特色を具体的に考える事ができる。	自分が住んでいる地区・地域を、計画に沿って具体的に観察したり調査し、その結果を紹介カードや地図にわかりやすく表現することができる。	自分が住んでいる地区・地域の様子は、場所によって違いがあることやそれぞれの場所の特徴がわかる。

4 指導計画

おもな学習活動と内容	時間	指導上の留意点
①お気に入りの場所 自分が住んでいる地区・地域で見つけたお気に入りの場所やふしぎを出し合う。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる居住地区や通学路で、行ったことのある事物や特徴的な事物に目を向けられるようにする。 ・資料の収集にあたっては、保護者や日本人会、地元の方などに適宜協力を要請する。 ・「ふしぎ」「おすすめ」といった言葉をキーワードとして紹介カードを書くようにする。

<p>②しょうかいします 地域について調べてきたことを、写真や絵を利用して友だちにわかりやすくカードにまとめる。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しがもてるよう、「対象者」「内容」「日程」「役割分担」といった視点を提示する。 ・マップ作りの第1段階として、模造紙にマップを描き、紹介カードで扱う地点をマップにポイントしていく方法でまちの紹介マップを作成していく。
<p>③まちの紹介マップにまとめる ・どのようなマップにするか見てもらいたい人、内容や制作日程、役割分担の計画をたてる。 ・マップを作成する。</p>	2 11	<ul style="list-style-type: none"> ・第2段階として、まちの紹介マップをwebサイト化し、学校のwebサイトを通じてインターネット上に発信していくようにする。その際、リヤド市という大きな都市の各地区から通学していることや、遠く離れている日本にも自分たちの活動を知って欲しい相手がいることに目を向けさせ、インターネット上で情報発信していくことの必然性・必要感を充分にもてるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会を行い、作業の進捗状況や改善点などを話し合う。 ・完成したマップを見直し、計画通りのマップとなったか検討する。 ・完成発表会を行う。 	1 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・計画で話し合い決定したことを参考に、作成中のマップの内容が、目的に沿っているか確認するようにする。 ・個人情報や著作権、学校の安全確保の観点から内容に問題がないか、担当教員及び管理職により充分に確認を行う。 ・児童の学習成果を保護者にも周知する。

※必要なもの：市街図、模造紙、ワークシート（紹介カード）、色鉛筆、コンピュータ
プレゼンテーション及びレイアウトソフト（ジャストスマイル3／ジャストシステム）

(2) リヤド及びリヤド近郊における校外学習候補地や商店を探索しマップ化

(1) (3) の活動を行うために調査・収集した資料をもとに、「リヤドマップ」(資料③)を作成した。掲載した項目は、主要道路、ハイパーマーケット、日本食材店、雑貨店、銀行、郵便局、レストラン、邦人が居住する集合住宅地等である。すべて実地踏査を行い、正確な位置と内容を記載するようにした。

このマップは極端に日本人向けの情報が少ないサウジアラビアに於いて、社会科の学習のみならずリヤドの日本人社会全体にとっても有用な資料となり活用されていると自負する。



資料③ リヤドの紹介マップ (左) / 紹介ページの例 (右)

(3) リヤドの紹介マップをWEBページ化し、インターネット上に情報発信

(1) の実践に於いて作成された学習成果物をWEBサイト化し、本校のWEBサイトを通じてインターネット上に情報発信した(ダウンロード先URL <http://files.me.com/hajime.f/44hbg1>)。活動にあたった子どもたちに対しては、リヤド市という大きな都市の各地区から通学していることや、遠く離れている日本にも自分たちの活動を知って欲

しい相手がいることに目を向けさせ、インターネット上で情報発信していくことの必然性・必要感を充分にもてるようにすることができた。

本サイトをインターネットで閲覧するためには、本校WEBサイトのトップページ上で「ギャラリー」を選択し、パスワードを入力する必要がある。パスワードは学校から配布するので、不特定多数の人が紹介マップを閲覧することはできないが、児童の学習成果物を心ないインターネットユーザーから保護する上で有効な手段だと考える。

リヤドの紹介マップ「リヤドのおすすめ・ふしぎポイント」は電子データ化されているので、今後、紹介するポイントを増やしていったり、現地理解教育に関する活動を電子データ化した際にも、容易に関づけることができる。つまり、この紹介マップを起点として学校全体の現地理解教育およびその学習成果を発展させていくことが可能である。

3. おわりに

平成19年度の1学期開始当初、小学3・4年生の社会科は複式の授業形態をとっていたが、2学期からは学校運営上の理由から突如として単学年での授業となった。これは不測の事態であった。本校では職員数と学年数との関係から複式での授業を想定した年間指導計画を立てているため、学習内容の連続性・整合性にずれが生じてしまう点で問題であった。また、予めから小学3・4年生を組にして活動を行う（バディシステム）を用いる予定であったため、それが使えない中での授業内容は予定よりも低い成果が見込まれた。こうしたネガティブな予測があったものの、児童の示した学習成果は18年度にも勝るとも劣らない物であった。その理由を考えると、4年生は前年度の学習によって、プロジェクト学習の活動イメージが定着しており、主体的に課題を設定し、調べ活動を行い、情報の伝達相手を意識したレポートの作成を前年度よりも一段上のレベルで行うことができたからであろう。3年生について考えるならば、1学期に複式で活動を行った際、4年生の活動状況がよいお手本となり、3学期は4年生の援助から自立してプロジェクト学習に取り組む形となったからであろう。複式が解消されたことで、一人でコンピュータを使用できる時間が増えたことも一因である。さらにいえば、担当教員による児童一人一人への手厚いフォローが行われたことも記憶にとどめておきたい。

当地の日本人学校における教育事情を知るにつれ、「日本とは、気候、地形、宗教、文化、社会システムなどが大きく異なるサウジアラビアに於いて、日本の教育課程に準じつつ海外に在する子女教育施設であり、かつ小規模校である本校の特性を生かした、社会科における授業展開や教材の開発」の必要性を再認識した。今後は、「リヤド及びリヤド近郊における校外学習候補地」のマップ化や、そこにおいて実施しうる活動や校外学習実施における諸条件をまとめることを後任者に期待したい。現地理解教育を進めるためにも、サウジアラビアの文化について、食生活や衣生活、住生活など具体的な視点を設けた社会科の学習展開を、学校を挙げて開発し進めていってくれることを切に願っている。